

Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition

RUR2 (Service Pack 2) インストール手順書

はじめに

本手順書は、Windows XP Professional x64 Edition RUR2 対応 (Service Pack 2) 差分モジュール(RUR XPX64-002b-N)を正しく適用するための手順書です。

本手順書を**必ず一度お読みの上**、Windows XP Professional x64 Editionのインストール および「システムのアップデート」を実施した後で、適用してください。

Windows XP Professional x64 Edition のインストールやシステムのアップデートは、それぞれの装置に添付のユーザーズガイドを参照し実施してください。

注意

「ユーザーズガイド」は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROM に収められている場合もあります。Express5800 シリーズをお買い上げ時に「ユーザーズガイド」が添付されていない場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROM 中のマスターコントロールメニューから「オンラインドキュメント」を参照してください。

● インストールに必要なもの

Windows XP Professional x64 Edition RUR2 (Service Pack 2) をインストールする前に、以下の媒体と手順書がそろっていることを確認してください。

- **Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition Service Pack 2**
(以降、「Windows XP x64 Edition Service Pack 2」と呼ぶ)

Windows XP x64 Edition Service Pack 2 は、次のいずれかをご用意ください。

- **web サイトなどから Windows XP x64 Edition Service Pack 2 をダウンロードする**
(以降、「ダウンロード版 Service Pack 2」と呼ぶ)
- **Windows XP x64 Edition Service Pack 2 CD-ROM を用意する**
(以降、「CD-ROM 版 Service Pack 2」と呼ぶ)

- **Windows XP Professional x64 Edition RUR2 対応(Service Pack 2)差分モジュール**
(以降、「Windows XP x64 Edition RUR2」と呼ぶ)

Windows XP x64 Edition RUR2 は、次のいずれかをご用意ください。

- **『NEC 8番街』 (<http://nec8.com>) から Express5800 用 Windows XP Professional x64 Edition Service Pack 2 差分モジュール (RUR XPx64-002b-N) をダウンロードする**
(以降、「ダウンロード版 RUR2」と呼ぶ)
- **NEC Express5800 シリーズ Windows® XP Professional RUR CD-ROM (243-110442-589-A)を用意する**
(以降、「CD-ROM 版 RUR2」と呼ぶ)

- **Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition RUR2 (Service Pack 2) インストール手順書 (本書) (856-121112-207-C)**

注意事項

ここでは、**Windows XP x64 Edition RUR2**を正しくインストールするために、インストールを開始する前に知っておかなければならない注意事項について説明します。

インストールを開始する前に必ずお読みください。

● ソフトウェアプロダクトについて

ソフトウェアプロダクトによっては、Windows XP x64 Edition Service Pack 2 環境上での動作が保証されていない場合があります。Windows XP x64 Edition Service Pack 2 の適用の際には、ご利用中のソフトウェアプロダクトのご購入元に必ずご確認していただいたうえで適用くださるようお願いいたします。

『NEC 8番街』 <http://nec8.com>

－ [サポート情報] － [→ ワークステーション]－[ダウンロードサービス]

詳細情報、最新情報、およびその他プロダクトに関する情報については、お買い上げのNEC販売店、もしくは最寄りのNECまでお問い合わせください。

重要

以下のソフトウェアは本書後述の注意事項を必ずお読みください。

- | | |
|-------------------------------------|-----------|
| － ESMPRO/ServerManager | [P. 5 参照] |
| － ESMPRO/ServerAgent | [P. 5 参照] |
| － N8103-52 (Global Array Manager) | [P. 8 参照] |
| － N8103-73A/80 (Power Console Plus) | [P. 8 参照] |

● Windows XP Professional x64 Edition サービスパックの適用について

- － Express5800シリーズに Windows XP Professional x64 Edition Service Pack 2 を適用する場合は、必ず本書にしたがって、**Windows XP x64 Edition RUR2** を使用し適用してください。

注意

Windows XP x64 Edition RUR2 をサポート対象外の装置に適用すると、以下のメッセージが表示され適用できません。



- － 既にWindows XP x64 Edition Service Pack 2 が適用されている場合は、Windows XP x64 Edition Service Pack 2 を再適用する必要はありません。

Windows XP x64 Edition Service Pack 2 のみ適用してください。

手順は本書の「1. Windows XP x64 Edition RUR2 の適用」手順(5)〈Windows XP x64 Edition RUR2のみを適用する場合〉を参照してください。

- － Windows XP x64 Edition RUR2 は、**アンインストールできません**。

● システムの構成変更について

システムの構成変更(内蔵オプションの取り付け/取り外し)を行った場合は、本手順書にしたがって **Windows XP x64 Edition RUR2** を再適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。

● ドライバの署名について

Windows XP x64 Edition RUR2 を適用する場合、必ず適用前に以下の手順でドライバ署名オプションの状態を確認してください。(確認の際には管理者権限のあるユーザ(administrator等)でログインしてください。)

- ① [スタートメニュー]から[コントロールパネル]を選択します。
- ② [コントロールパネル]内にある[システム]を起動しハードウェアタブを選択します。
- ③ ドライバの[ドライバの署名(S)]をクリックします。
ファイルの署名の確認が
「無視-ソフトウェアをインストールし、確認を求めない(I)」もしくは
「警告-毎回、操作の選択を求める(W)」
になっていることを確認してください。

「ブロック-署名されていないドライバソフトウェアをインストールしない(B)」設定になっている場合には上記2つのどちらかに変更した後、**Windows XP x64 Edition RUR2** を適用してください。(設定を変更する際、システムの再起動は不要です。)

ドライバ署名オプションの設定を変更した場合には、**Windows XP x64 Edition RUR2** を適用後、変更前の設定に戻してください。

● Intel® LANドライバを使用しているシステムにWindows® XP x64 Edition RUR2 (ServicePack2) を適用する場合について

Intel®製のLANアダプタをご使用になっている場合は、LANドライババージョンにより、ドライバのアップデートを実施する必要があります。

下記の「1.ドライババージョン確認手順」にしたがってバージョンの確認を行い、該当する場合は、**Service Pack 2**を適用する前に**LANドライバをアップデート**してください。

1. ドライババージョン確認手順

- ① [ローカルエリア接続]のプロパティダイアログを開きます。

スタートメニューから[コントロールパネル]をクリックして[コントロールパネル]を表示させます。[ネットワーク接続]をクリックして[ローカルエリア接続]をクリックします。

ヒント クラシックメニューの場合

スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]を選択し[ネットワーク接続]ウィンドウの[ローカルエリア接続]アイコンを右クリックして[プロパティ]を選択します。

- ② ネットワークアダプタのプロパティを開いてドライババージョンを確認します。

[構成]をクリックして、ネットワークアダプタのプロパティを開きます。
[ドライバ]タブの[ドライバの詳細]を押してバージョンを確認します。
(拡張子が sys のファイルを確認してください)

下記いずれかのドライババージョンの場合はLANドライバをアップデートする必要があります。下記「2. LANドライバダウンロード」のURL から アップデートモジュールをダウンロードし、適用してください。

(表1)

カテゴリ	OS/Driver ファイル名	ドライババージョン
100 BASE ドライバ	Windows® XP x64 Edition/ eFE5b32e.sys	8.0.19.0 ~ 8.0.21.0
1000 BASE ドライバ (PCI)	Windows® XP x64 Edition/ e1G5132e.sys	8.5.14.0 ~ 8.6.11.0
1000 BASE ドライバ (PCI-Express)	Windows ® XP x64 Edition/ e1e5132e.sys	9.0.15.0 ~ 9.2.24.0

2. LANドライバダウンロード

ダウンロード(Express5800)先 URL :

http://www.express.nec.co.jp/care/download/dload_main.html

タイトル : Windows Server 2003 SP2対応 Intel LANドライバリリースの件

ドライバインストール手順は、上記に登録されているインストール手順書を参照してください。

● PatchMeister を使用した Windows XP x64 Edition Service Pack 2 、Windows XP x64 Edition RUR2の適用について

PatchMeisterによる Windows XP x64 Edition RUR2 の適用が可能です。

PatchMeisterを使用する場合は、本書後述のインストール手順にしたがって Windows XP x64 Edition RUR2 を適用してください。

(「3. PatchMeisterを使用したWindows XP x64 Edition Service Pack 2 、Windows XP x64 Edition RUR2の適用」P.18 参照)

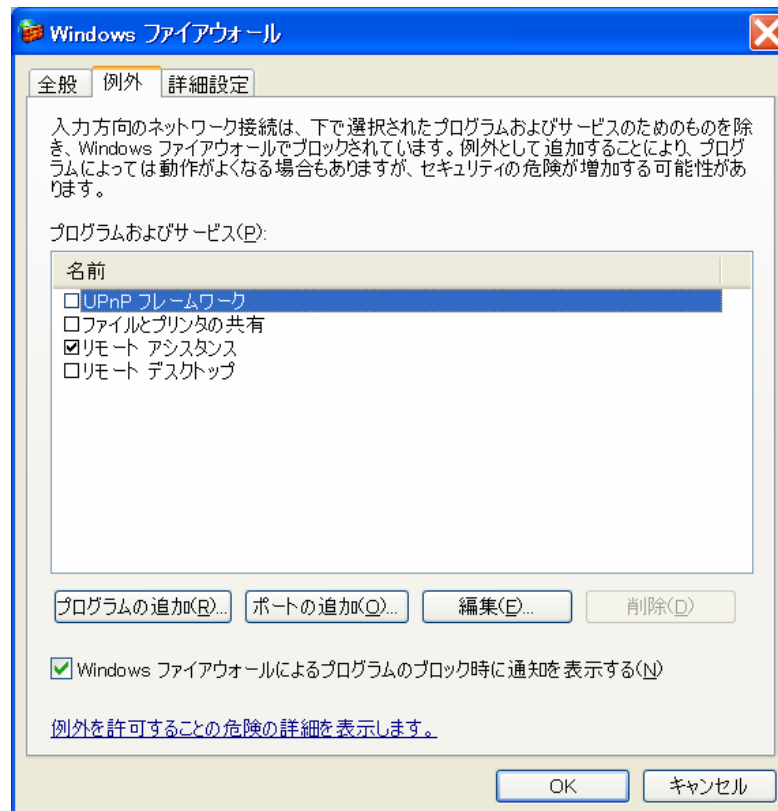
● Windows XP x64 Edition Service Pack 2 上で、ESMPRO/ServerManager, ServerAgent を使用する際の注意事項について

1. Windows XP x64 Edition Service Pack 2 上で、Windows ファイアウォールを有効にして、ESMPRO/ServerManager または ESMPRO/ServerAgentを使用する場合は、Windows ファイアウォールのポートを開いてください。

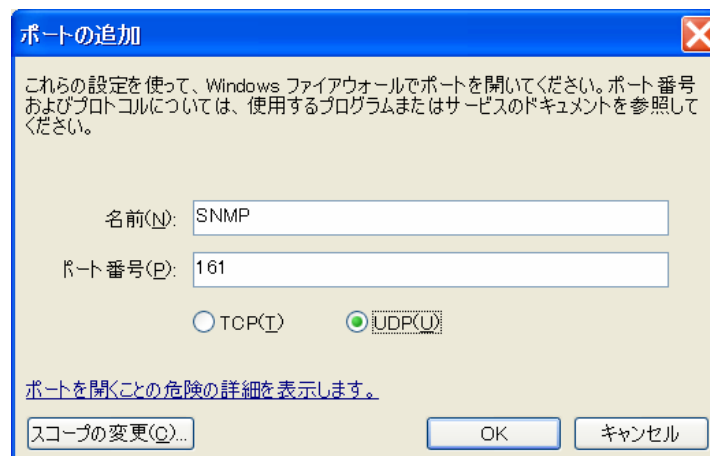
□ 設定方法

Windows ファイアウォールを有効にする場合は、以下の手順でWindows ファイアウォールのポートを開いてください。

- (1) [スタート]メニューから、[ファイル名を指定して実行]を選択し、[wscui.cpl]と入力して[OK]をクリックする。
- (2) [Windows ファイアウォール]をクリックする。
- (3) [Windows ファイアウォール]ダイアログボックスの[例外]タブをクリックし、[ポートの追加]をクリックする。



- (4) [ポートの追加]ダイアログボックスで、[名前]と[ポート番号]ボックスに入力し、[TCP]または[UDP]の選択を行い、[OK]をクリックする。



◆ 対象ポート(ESMPRO/ServerManager)

ESMPRO/ServerManagerがインストールされたマシン上、Windows ファイアウォールの[ポートの追加]ダイアログボックスで設定するポートは以下の通りです。

名前(変更可能)	ポート番号	プロトコル	該当環境
マネージャ間通信	8806	TCP	マネージャ間通信機能使用時
SNMP Trap	162	UDP	マネージャ通報(SNMP)使用時 (デフォルト設定)
高信頼性通報	31134	TCP	マネージャ通報(TCP/IP in Band) 使用時
マネージャ経由エクスプレス 通報	31136	TCP	マネージャ経由でエクスプレス通報 サービス使用時

◆ 対象ポート(ESMPRO/ServerAgent)

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたマシン上、Windows ファイアウォールの[ポートの追加]ダイアログボックスで設定するポートは以下の通りです。

名前(変更可能)	ポート番号	プロトコル	該当環境
SNMP	161	UDP	すべて

2. Windows XP x64 Edition Service Pack 2 上のESMPRO/ServerManagerで、ひとつのネットワークカードに複数のIPアドレスが設定されているサーバを監視できない場合があります。

→ ひとつのネットワークカードに複数のIPアドレスが設定されているサーバを監視する場合、ESMPRO/ServerManagerからのSNMP RequestパケットのIPヘッダ中の送信元アドレスと、ESMPRO/ServerAgentからのSNMP ResponseパケットのIPアドレスが異なることがあります。このような環境で、Windows ファイアウォールのサービス起動前にESMPRO/ServerManagerがESMPRO/ServerAgentからのResponseパケットを受信した場合、それ以降、そのサーバを監視できなくなります。

□ 回避策

ESMPRO/ServerManagerのオペレーションウィンドウ上でサーバアイコンのプロパティ画面を開き、IPアドレスを監視対象サーバ上で設定されている別のアドレスに変更し、システムを再起動します。

3. ESMPRO/ServerManager, ServerAgentが使用するポートの一覧(参考)

(1) ServerManager ⇔ ServerAgent 間

機能	マネージャ	方向	エージェント	備考
データビューア/死活監視(SNMP)	不定	→ ←	161/udp	snmp
データビューア/死活監視(DMI)	不定	→ ←	135/tcp+不定	rpc(tcp)
マネージャ通報(SNMP)	162/udp	←	不定	snmp-trap
マネージャ通報(TCP/IP in Band)	31134/tcp	← →	不定	
マネージャ通報(DMI)	不定	← →	不定	rpc(tcp)
マネージャ経由エクスプレス通報	31136/tcp	← →	不定	
Remote Wake Up	不定	→	10101/udp	magic packet

※ 双方向のものは、上段の矢印が通信開始時のもので、下段は折り返しの通信を示します。

※ マネージャ通報(TCP/IP in Band)とマネージャ経由エクスプレス通報で使用するポート番号は、通報の設定画面より変更することができます。

※ DMIによるデータ収集・通報では送信元、送信先ともに使用するポートが不定になります。DMIは他社サーバ管理用のプロトコルであるため、Expressサーバの管理において使用する必要はありません。

※ 「不定」の箇所はポートが決まっていません(通信開始時未使用ポートを使用します)。

(2) ServerManager ⇔ ServerManager 間

機能	マネージャ	方向	マネージャ	備考
マネージャ間通信	不定	→ ←	8806/tcp	

※ 使用するポート番号は、オペレーションウィンドウの「オプション」→「カスタマイズ」→「マネージャ間通信」の隣接マネージャの追加時、またはプロパティで変更可能です。

(3) ServerAgent ⇔ メールサーバ 間

機能	エージェント	方向	メールサーバ	備考
エクスプレス通報サービス (インターネットメール)	不定	→	25/tcp	smtp
		←		
		→	110/tcp	pop3
		←		

● N8103-52 (Global Array Manager)をご使用の場合

- Global Array Manager のクライアントを起動すると、初回起動時のみ「Windows セキュリティの重要な報告」のポップアップが表示され、Disk Array Management Tool をファイアウォール設定から解除するかを選択を要求されます。
クライアントをローカルサーバだけで使用する場合は、「ブロックする」を選択してください。
ネットワーク上のリモートサーバでクライアントを使用する場合は、「ブロックを解除する」を選択してください。
- ネットワーク上のリモートサーバで Global Array Manager のクライアントを使用する場合は、Global Array Manager のサーバをインストールしたサーバで、Windowsファイアウォールの例外ポートとして 157 を設定してください。
設定されてない場合は、クライアントの Global Status View に表示されるサーバアイコンが × 印になり、ネットワーク上のクライアントからのアレイの管理ができなくなります。

● N8103-73A/80 (Power Console Plus)をご使用の場合

- ネットワーク上のリモートサーバで Power Console Plus のクライアントを使用する場合は、Power Console Plus の「サーバ」コンポーネントをインストールしたサーバで、Windowsファイアウォールの例外ポートとして 3571を設定してください。また、「管理サーバ」コンポーネントをインストールしたサーバでも、Windowsファイアウォールの例外ポートとして3572を設定してください。
設定されてない場合は、クライアントのサーバ選択欄にサーバが表示されず、ネットワーク上のクライアントからのアレイの管理ができなくなります。

【Windowsファイアウォールの例外ポートの追加手順】

- ① [スタート]メニューから、[コントロールパネル]を選択し、[Windowsファイアウォール]を起動します。
- ② Windowsファイアウォールウィンドウの[例外]タブを選択し、[ポートの追加] をクリックします。
- ③ [ポートの追加]ウィンドウにてポート番号に追加するポート番号を指定し、任意の名前を設定します。

- ④ [例外]タブのプログラムおよびサービスの、作成したポート番号のチェックボックスがチェックされていることを確認します。チェックされていない場合はチェックします。
- ⑤ [OK]をクリックして、ウィンドウを閉じます。

● SCSI HostRAID を使用している場合について

<SCSI HostRAID 起動可能なアレイシステムの設定>

SCSI HostRAID ご使用の場合はSCSI HostRAIDのBIOSにて、システムを起動するアレイに対し「起動可能なアレイシステムの設定」が必要になります。

重要 本設定を行わない場合は、障害発生時メモリダンプを採取することができない等の問題が発生します。

- ① システムを起動、または再起動したときに以下のメッセージが表示されたら、<Ctrl>キーと<A>キーを同時に押す。

Press <CTRL>< A> for SCSISelect (TM) Utility!

- ② 次に表示されるデバイスマニューで、チャンネルを選択し<Enter>キーを押す。

ヒント

- 必ずアレイが作成されているチャンネルを指定してください。
- 使用されている機種によっては、チャンネルが1つしかないものもあります。

- ③ 「Configure/View HostRAID Settings」メニューを選択する。

ヒント <Options メニューに「Configure/View HostRAID Settings」メニューがない場合> HostRAID の機能が有効になっていません。そのため、「起動可能なアレイシステムの設定」を行う必要はありません。

- ④ メインメニューでアレイを選択し、<Enter>キーを押し、次にBootableを押す。

ヒント [Bootable]のメニューがない本体装置は設定する必要がありませんので、次へ進んでください。

- ⑤ システムを起動するアレイにカーソルを合わせ、Mark Bootableを選択して<Enter>キーを押す。

ヒント Mark Bootable の設定はキーボードのキーを押下することにより設定と解除ができます。

重要 作成したアレイからシステムを起動する場合は、必ず本設定を実施してください。Mark Bootable を選択することにより、SCSI ID の優先順位に関係なく、アレイに起動優先権が与えられます。起動可能なことを示す「B」が、ドライブ ID の横に表示されます。

1 Windows XP x64 Edition RUR2 の適用

ここでは、Windows XP x64 Edition RUR2 の適用方法について説明します。

重要 Windows XP x64 Edition RUR2 を適用する前に、「Microsoft Windows XP x64 Edition Service Pack 2 の Web サイト」を参照し、お使いのシステムのディスク容量を確認してください。

- (1) 周辺装置、Express5800 シリーズの順に電源を ON にし、Windows XP x64 Edition を起動する。
- (2) 次のいずれかの方法で、Windows XP x64 Edition Service Pack2 を用意する。

● **ダウンロード版 Service Pack 2 の場合**

ご使用のシステムの任意のディレクトリに ダウンロード版 Service Pack2 をコピーしてください。

- 重要**
- ダウンロードしたファイル (*.exe) は解凍する必要はありません。
 - 任意のディレクトリ名に空白を含む文字を指定しないでください。

● **CD-ROM 版 Service Pack 2 の場合**

Microsoft 社製 Windows XP x64 Edition Service Pack 2 CD-ROM を用意してください。

- (3) 次のいずれかの方法で、Windows XP x64 Edition RUR2 を用意する。

● **ダウンロード版 RUR2 の場合**

- ① 『NEC 8番街』(<http://nec8.com>) から Windows XP x64 Edition RUR2 をダウンロードする。
- ② スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
- ③ 名前の欄にダウンロードしたファイル名をフルパス(例えば、C:¥TEMP¥***.EXE など)で入力し、[OK]をクリックする。
- ④ モジュールの展開先フォルダ名を入力し、[解凍(X)]をクリックする。

● **CD-ROM 版 RUR2 の場合**

NEC Express5800 シリーズ Windows® XP Professional RUR CD-ROM を用意してください。

- (4) 次のいずれかの方法で、Windows XP x64 Edition RUR2 を実行する。

● **ダウンロード版 RUR2 の場合**

エクスプローラ、コマンドプロンプト等から、(3)でダウンロードし解凍したモジュールの展開先フォルダにある¥RUR¥update.vbs を実行する。

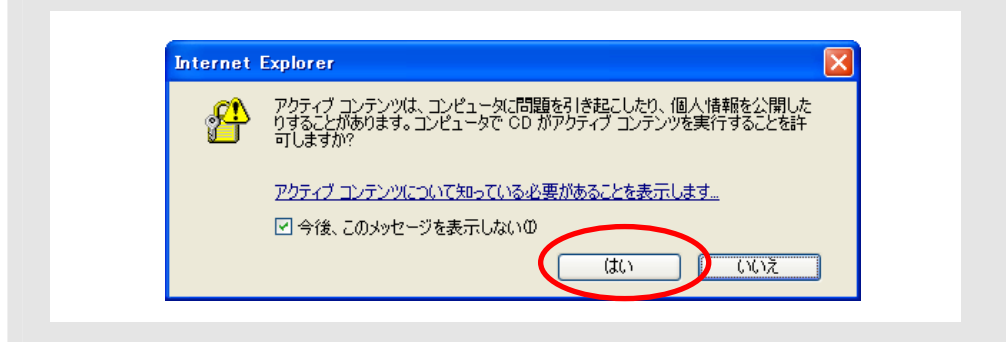
● **CD-ROM 版 RUR2 の場合**

自動的にメニューが表示されるので、メニュー画面 から「はじめに」→『■ Windows XP x64 Edition システムをご使用の場合』をクリックする。

ヒント メニュー画面が自動的に起動しない場合は、以下のファイルを実行してください。
<CD-ROM のドライブレター>¥readme.html

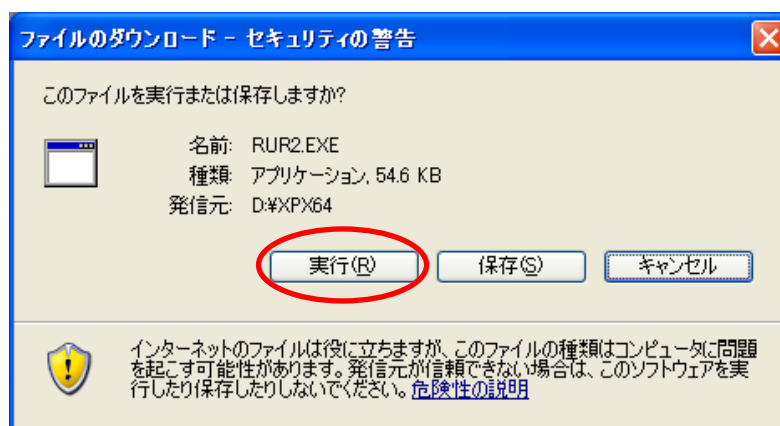
Windows XP x64 Edition RUR2 の説明画面が表示されるので、説明画面の内容を確認し、[一差分モジュールを適用する]をクリックする。

チェック 次のメッセージが表示される場合がありますが、[はい]をクリックし作業をすすめてください。

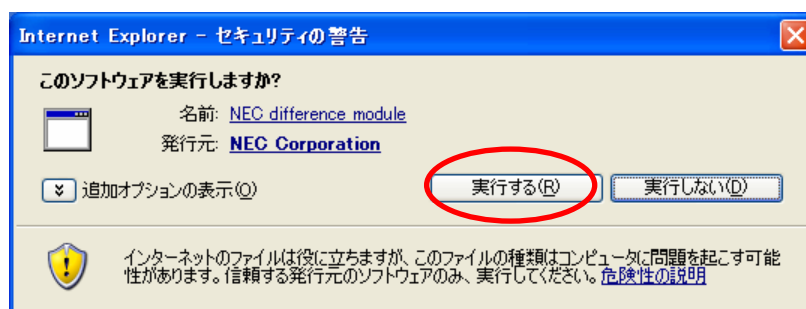


チェック 次のメッセージが表示される場合がありますが、以下の手順ですすめてください。

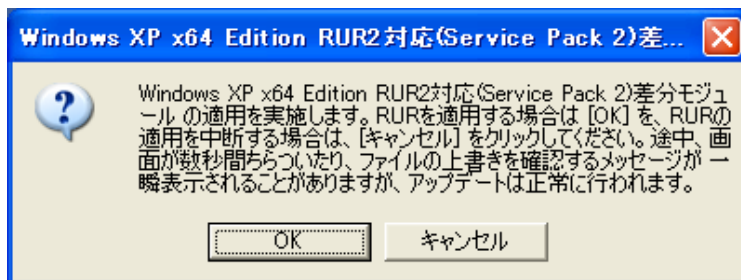
1. 次の画面が表示されたら、[実行]をクリックする。



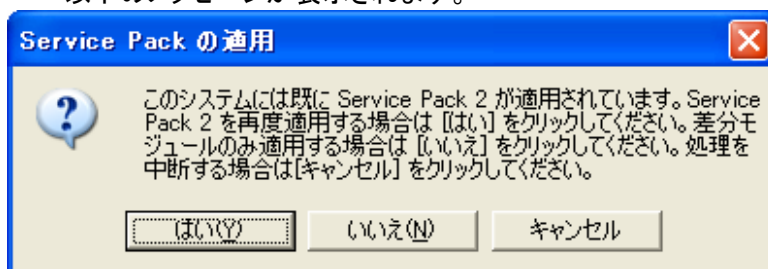
2. 次の画面が表示されたら、[実行する]をクリックする。



- (5) 次のメッセージが表示されたら、内容を確認し [OK]をクリックする。
アップデートを中断するには、[キャンセル]をクリックしてください。



- 【Windows XP x64 Edition Service Pack 2 が適用されている場合】**
以下のメッセージが表示されます。

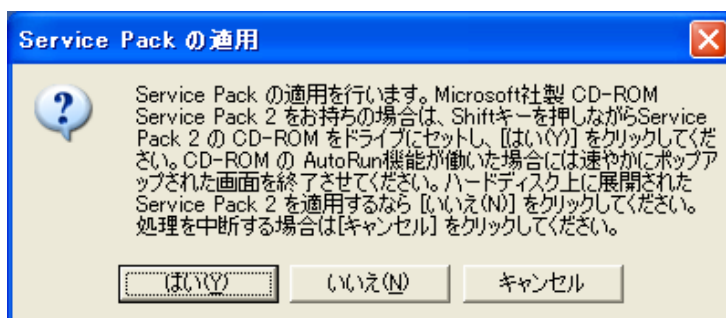


<再度 Windows XP x64 Edition Service Pack 2 を適用する場合>
[はい]をクリックし、(6)へ進んでください。

<Windows XP x64 Edition RUR 2 のみを適用する場合>
[いいえ]をクリックし、(10)へ進んでください。

<処理を中断する場合>
[キャンセル]をクリックしてください。

- (6) 次のメッセージが表示されます。
光ディスクドライブに、CD-ROM 版 RUR2 をセットしている場合は、取り出してください。



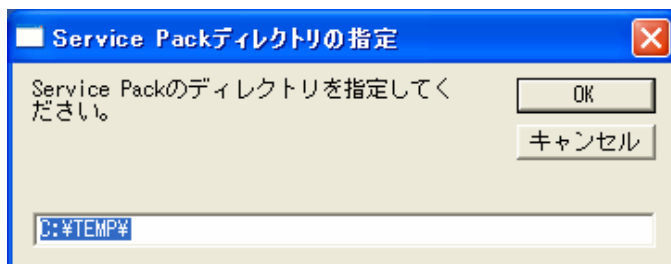
<ダウンロード版 Service Pack2 を使用する場合>
[いいえ(N)]をクリックし、(7)へ進んでください。

<CD-ROM 版 Service Pack2 を使用する場合>
画面指示にしたがって<Shift>キーを押しながら CD-ROM 版 Service Pack 2 を光ディスクドライブにセットし、[はい(Y)]をクリックし、(8)へ進んでください。

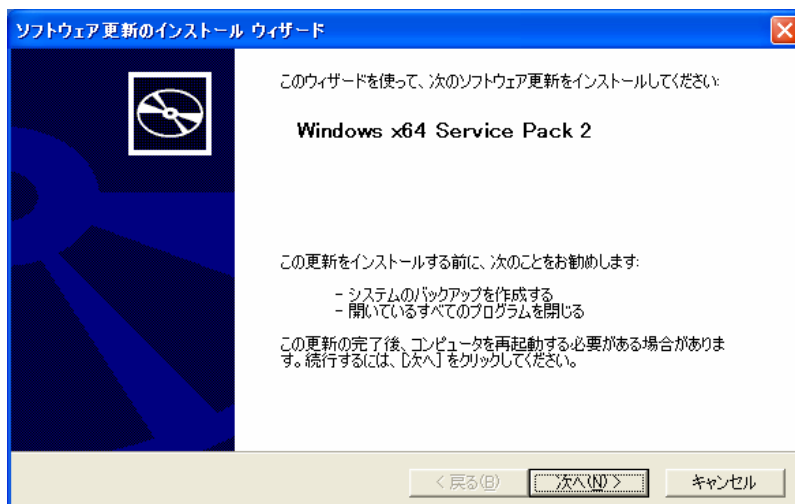
<処理を中断する場合>
[キャンセル]をクリックしてください。

- (7) Windows XP x64 Edition Service Pack 2 をコピーしたディレクトリ名を要求されますので、Windows XP x64 Edition Service Pack 2 をコピーしたディレクトリパスを入力し、[OK]をクリックしてください。

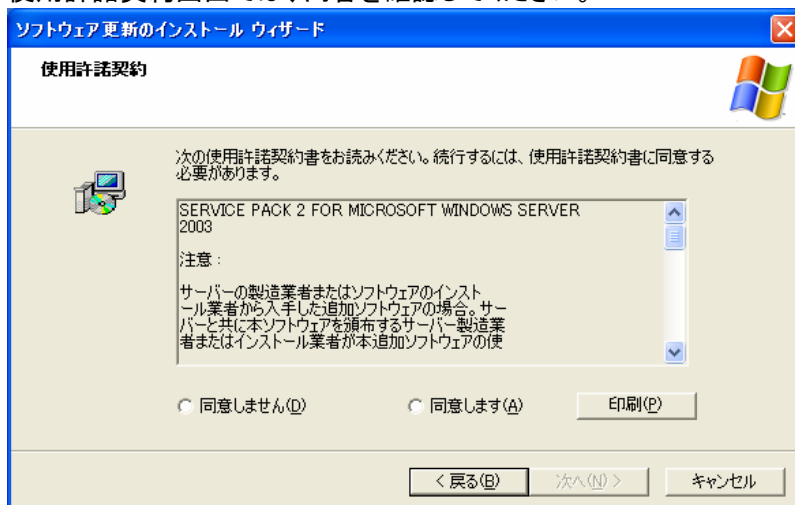
[キャンセル]をクリックすると、(6)に戻ります。



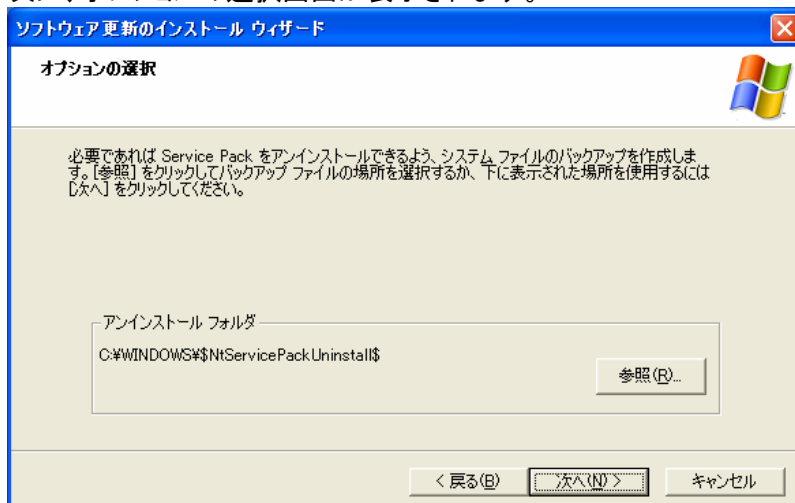
- (8) Windows XP x64 Edition Service Pack 2 のインストールが始まります。Windows XP x64 Edition Service Pack 2 セットアップウィザードにしたがってインストールをしてください。



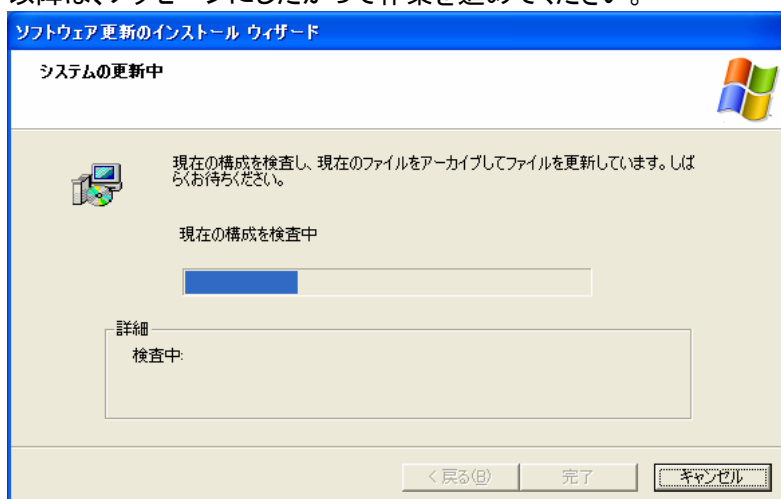
使用許諾契約画面では、内容を確認してください。



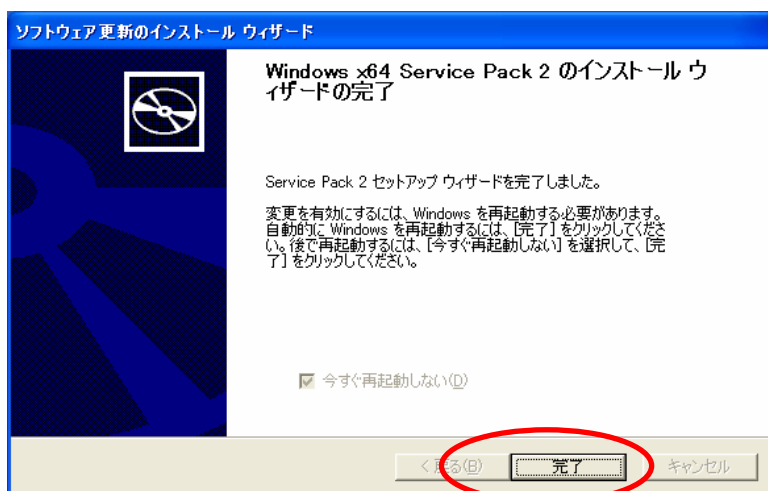
次に、オプションの選択画面が表示されます。



以降は、メッセージにしたがって作業を進めてください。



- (9) 次のメッセージが表示されたら、[完了]をクリックする。
ただし、[完了]をクリックしても システムは再起動しません。



- (10) Windows XP x64 Edition RUR2 内の差分モジュールの適用が始まります。

- (11) 以下のメッセージが表示されたら、差分モジュールの適用は終了です。
[OK]をクリックし、再起動を行います。



- ヒント**
- CD-ROM 版 Service Pack 2 を使用した場合、光ディスクドライブから CD-ROM を取り出してください。
 - CD-ROM 版 RUR2 を使用した場合、光ディスクドライブに CD-ROM が入っている場合は取り出してください。

Windows XP x64 Edition RUR2 の適用は、完了です。

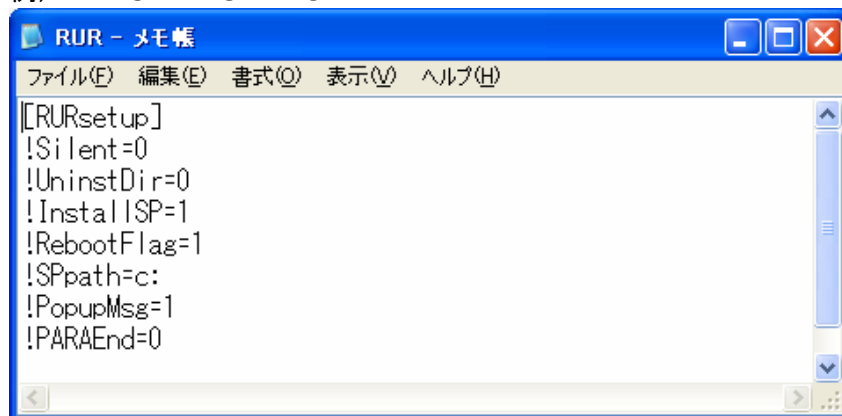
- ヒント**
- SCSI HostRAID を ご使用の場合は SCSI HostRAID の BIOS にて、システムを起動するアレイに対し「起動可能なアレイシステムの設定」が必要になります。Windows XP x64 Edition RUR2 の適用後、「SCSI HostRAID 起動可能なアレイシステムの設定」(P. 9)を参照し、設定をしてください。本設定を行わない場合は、障害発生時メモリダンプを採取することができない等の問題が発生します。

2 サイレントモードでの Windows XP x64 Edition RUR2 の適用

ここでは、サイレントモードで **Windows XP x64 Edition RUR2** を適用する方法について説明します。

重要 必ずシステムにログインしてからサイレントモードでの Windows XP x64 Edition RUR2 の適用を実施してください。
ログインしていないシステムでは、処理が中断する場合があります。

- (1) 次のいずれかの方法で、**Windows XP x64 Edition RUR2** を用意する。
 - **ダウンロード版 RUR2 を使用する場合**
任意のフォルダにダウンロードする。(例)E:¥RUR2)
 - **CD-ROM 版 RUR2 を使用する場合**
光ディスクドライブに **CD-ROM 版 RUR2** をセットする。
- (2) 次のいずれかの方法で、**Windows XP x64 Edition RUR2** を解凍またはコピーする。
 - **ダウンロード版 RUR2 を使用する場合**
『NEC 8番街』(<http://nec8.com>)からダウンロードしたモジュールを解凍する。
(例)E:RUR2¥RUR)
 - **CD-ROM 版 RUR2 を使用する場合**
CD-ROM 版 RUR2 内のファイルを、任意に作成したローカルのフォルダにコピーします。
ここでは例として「RUR2」というフォルダをEドライブ直下に作成し、そこにCD-ROM 版 RUR2 内の次のファイルをすべてコピーします。
<CD-ROM のドライブレター>:¥XPX64¥RUR2
- (3) 「RUR2」フォルダ内の「RUR.INF」をメモ帳などで開きます。
例) E:¥RUR2¥RUR¥RUR.INF



- (4) 「RUR.INF」ファイルを編集し、上書き保存します。

各パラメータの説明

名称	詳細	動作	指定値
!Silent	サイレントモード動作可否	サイレントモード実行する	1
		サイレントモード実行しない	0
!UninstDir	Windows XP x64 Edition Service Pack 2 のアンインストールディレクトリ作成可否	作成する (推奨)	1
		作成しない	0

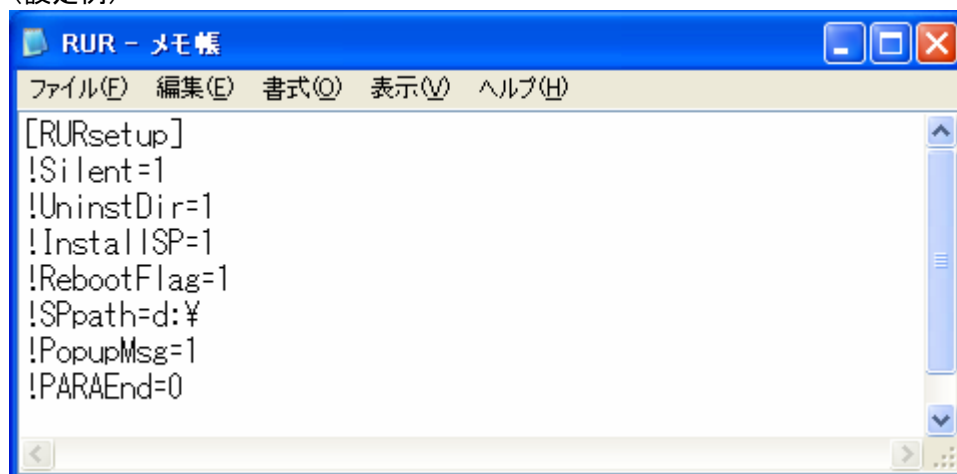
!InstallSP	Windows XP x64 Edition Service Pack 2 の適用可否	適用する	1
		適用しない	0
!RebootFlag	Windows XP x64 Edition RUR2 終了時の再起動可否	再起動する	1
		再起動しない	0
!SPpath	Windows XP x64 Edition Service Pack 2 の格納場所	指定したディレクトリ配下にある Windows XP x64 Edition Service Pack 2 を適用する	ディレクトリ名
!PopupMsg	サイレントモード動作時のメッセージ表示	表示する	1
		表示しない	0
!PARAEnd	パラメータの終端	パラメータの終端	0(で固定)

例) 以下の設定で **Windows XP x64 Edition RUR2** を適用する場合は、次のように設定します。

設定内容:

- ・サイレントモードで実行する
- ・Windows XP x64 Edition Service Pack 2 を適用する
- ・アンインストールディレクトリを作成する
- ・CD(Dドライブ)の Windows XP x64 Edition Service Pack 2 を使用する
- ・**Windows XP x64 Edition RUR2** の終了時に再起動する

(設定例)



```
[RURsetup]
!Silent=1
!UninstDir=1
!InstallSP=1
!RebootFlag=1
!SPpath=d:¥
!PopupMsg=1
!PARAEnd=0
```

(5) **E:¥RUR2¥RUR¥UPDATE.VBS** を実行します。

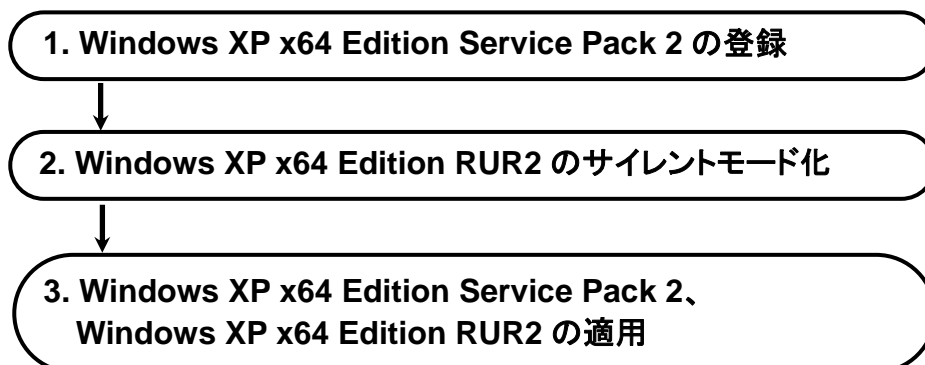
以降は自動で Windows XP x64 Edition Service Pack 2 と「**Windows XP x64 Edition RUR2**」の適用が行われます。なお、設定内容は必要に応じて修正してください。

ヒント SCSI HostRAID を ご使用の場合は SCSI HostRAID の BIOS にて、システムを起動するアレ
イに対し「起動可能なレイシステムの設定」が必要になります。Windows XP x64 Edition
RUR2 の適用後、「SCSI HostRAID 起動可能なレイシステムの設定」(P. 9)を参照し、設定
をしてください。本設定を行わない場合は、障害発生時メモリダンプを採取することができない等
の問題が発生します。

3 PatchMeister を使用した Windows XP x64 Edition Service Pack 2、Windows XP x64 Edition RUR2 の適用

ここでは PatchMeister を使用した Windows XP x64 Edition Service Pack 2、Windows XP x64 Edition RUR2 の適用方法について説明します。

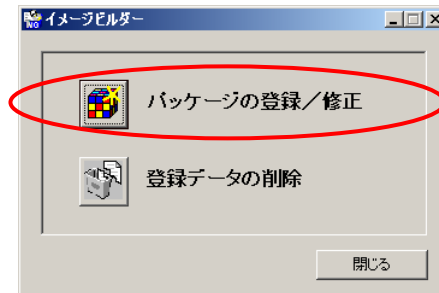
重要 PatchMeister の詳細な操作方法については、製品添付の説明書を参照してください。



1. Windows XP x64 Edition Service Pack 2 の登録

Windows XP x64 Edition Service Pack 2 を登録する手順を説明します。

- (1) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「PatchMeister」→「イメージビルダー」を選択し、起動したイメージビルダーから「パッケージの登録/修正」をクリックする。



- (2) 「パッケージの登録/修正」画面の「ファイル」メニューから「Windows パッケージの作成」を選択します。
- (3) 「基本」、「実行設定」、「対応 OS と言語」の各タブの項目を設定します。下記以外の項目の設定は、不要です。

・[基本]タブ

・パッケージ ID

パッケージにつける ID 番号です。半角英数と「-」、「_」の 63 バイト以内で入力します。入力は必須です。

・会社名

パッケージを発行する発行元の名称です。127 バイト以内で入力します。

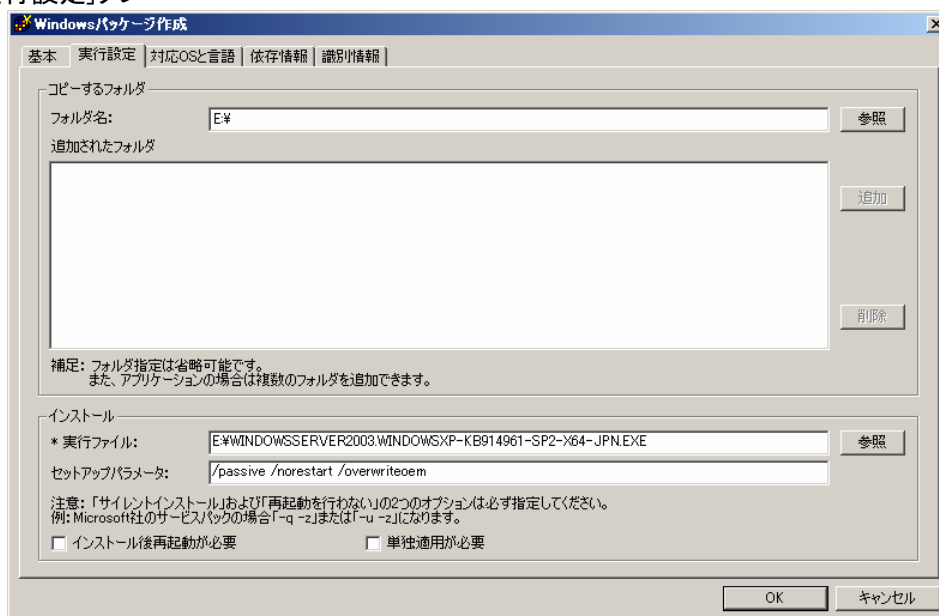
・リリース日付

パッケージをリリースした日付を入力します。西暦/月/日の書式で入力します。

- ヒント**
- ・リリース日付に無効な値を入力すると、無視されるまたは自動的に補正されます。
 - ・リリース日付の年は 4 桁、月と日は 2 桁で入力してください。

- ・パッケージ概要
パッケージの概要情報を入力します。511 バイト以内で入力します。
- ・タイプ
「サービスパック」を指定してください。
- ・緊急度
「一般」を指定してください。
- ・MS 番号
「KB914961」を指定してください。
- ・メジャーバージョン
「2」を指定してください。入力は必須です。
- ・マイナーバージョン
「0」を指定してください。入力は必須です。

・[実行設定]タブ



- ・フォルダ名
コピーするフォルダを指定してください。
「参照」ボタンをクリックして、フォルダ指定することが可能です。

- 注意**
- ・「フォルダ名」に UNC (Universal Naming Convention) 形式 (¥¥「マシン名」¥¥「共有フォルダ」¥¥「サブディレクトリ」) の指定はできません。あらかじめ「ネットワークドライブの割り当て」を行い、ドライブレターを割り当ててください。
 - ・パッチの登録は、フォルダ単位で行われます。1 つのフォルダ内には 1 つのパッチアプリケーションのみを格納するようにしてください。

- ・追加されたフォルダ
「フォルダ名」で指定したフォルダを「追加」ボタンをクリックして追加します。

・実行ファイル

「コピー元フォルダ: WindowsServer2003.WindowsXP-KB914961-SP2-x64-JPN.exe」を指定してください。
「参照」ボタンをクリックして、ファイル指定することが可能です。
入力は必須です。

重要 実行ファイル名に%xx(xx は 16 進数の 0～f)を含むファイル(例:file%9d.exe)は登録しないでください。%xx を含むパッケージは管理サーバに正しくダウンロードできません。

ヒント Microsoft から提供されるセキュリティパッチの仕様によっては、実行パスに 2 バイト文字が含まれると処理が正常に行われない可能性があります。実行ファイル名は、1 バイト文字で作成されることを推奨します。

・セットアップパラメータ

「/passive /norestart /overwriteoem」を指定してください。

セットアップパラメータのそれぞれの意味は以下になります。

「/passive」:

無人モードで更新します。シナリオ実行中にエラーとなった場合はその箇所でシナリオ実行が止まってしまいます。OS インストール中だとタイムアウトするまで Web コンソール上ではシナリオ実行中となります。リモートアップデート中だと Web コンソール上ではシナリオ実行中のままです。

「/norestart」:

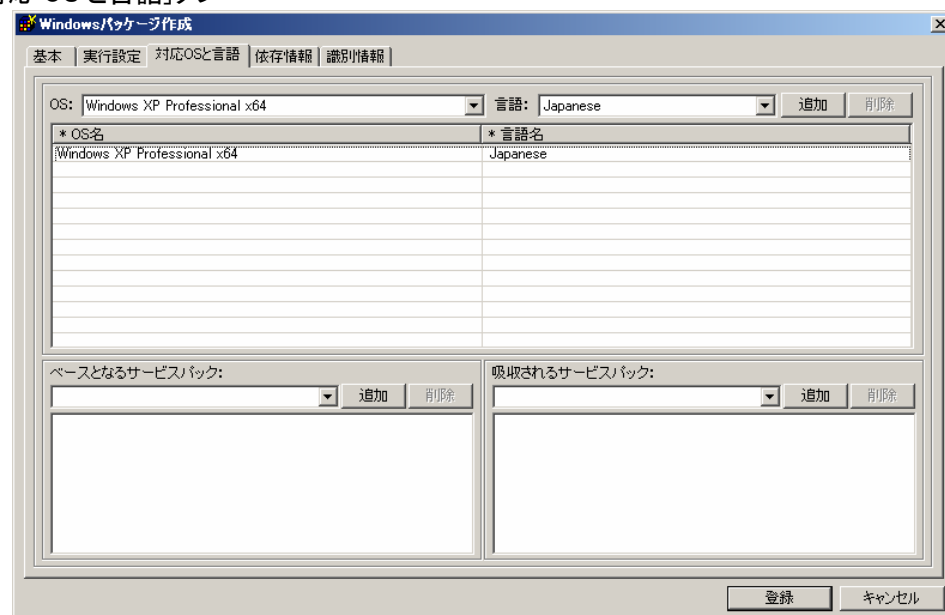
実行後に再起動を行わないようにするため「/norestart」を指定してください。

「/overwriteoem」:

OEM 固有のドライバがインストールされている場合に指定してください。
コマンドプロンプトを表示せずに処理を実行します。

ヒント これらのオプションは、サービスパック/HotFix を「/h」または「-?」のオプションをつけて実行するか、配布元のホームページ等で調べることができます。

・[対応 OS と言語]タブ



・「OS」と「言語」

パッケージを適用する OS と言語を選択します。以下 2 つを指定してください。

OS	言語
Windows XP Professional x64	Japanese

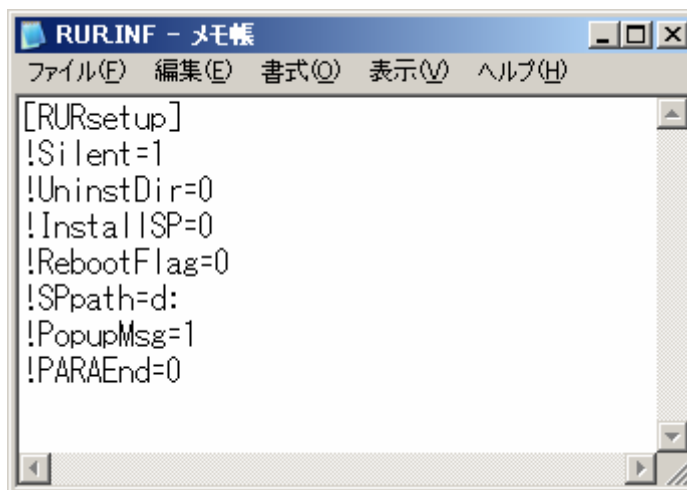
- (4) 「OK」ボタンをクリックしてパッケージを作成します。

以上で Windows XP x64 Edition Service Pack 2 登録は完了です。

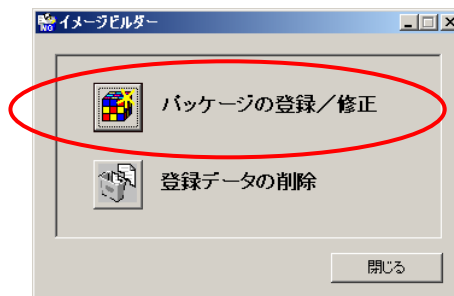
2. Windows XP x64 Edition RUR2 のサイレントモード化

PatchMeister で配信可能なサイレントモード形式にする手順を説明します。

- (1) 「Windows XP x64 Edition RUR2」内のファイルを、任意に作成したローカルのフォルダにコピーします。
ここでは例として E ドライブ直下の「RUR2」フォルダにファイルをコピーした場合を例として記載します。
- (2) 「RUR2」フォルダ内の「RUR.INF」をメモ帳等で開き下図と同じ設定となるように編集し、上書き保存します。
各パラメータの詳細については、本書の[2. サイレントモードでの Windows XP x64 Edition RUR2 の適用](P.16)の手順(4)「各パラメータの説明」の表を参照してください。

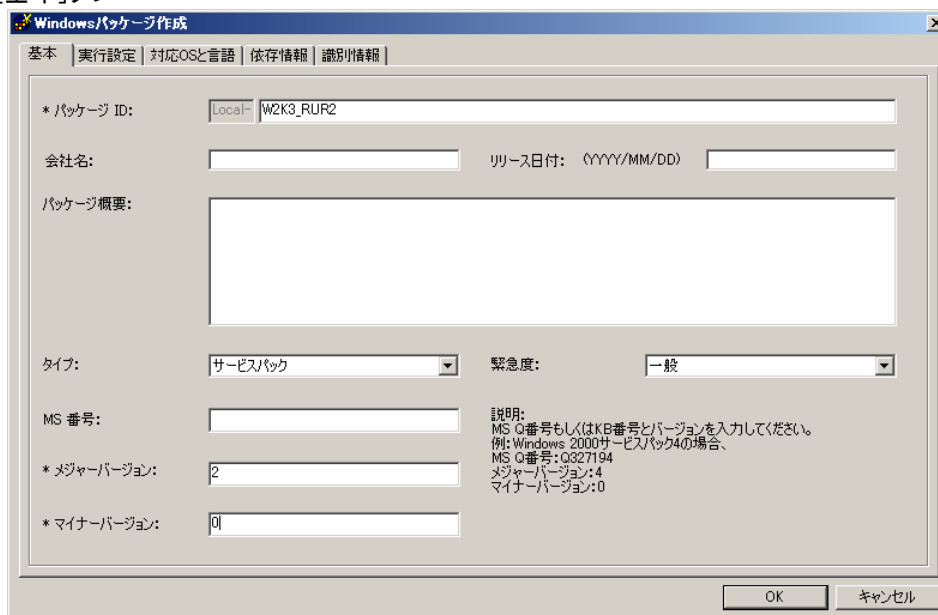


- (3) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「PatchMeister」→「イメージビルダー」を選択し、起動したイメージビルダーから「パッケージの登録/修正」をクリックする。



- (4) 「パッケージの登録/修正」画面の「ファイル」メニューから「Windows パッケージの作成」を選択します。
- (5) 「基本」、「実行設定」、「対応 OS と言語」の各タブの項目を設定します。
下記以外の項目の設定は、不要です。

・[基本]タブ



・パッケージ ID

パッケージにつける ID 番号です。半角英数と「-」、「_」の 63 バイト以内で入力します。
入力は必須です。

・会社名

パッケージを発行する発行元の名称です。127 バイト以内で入力します。

・リリース日付

パッケージをリリースした日付を入力します。西暦/月/日の書式で入力します。

- ヒント**
- ・リリース日付に無効な値を入力すると、無視されるまたは自動的に補正されます。
 - ・リリース日付の年は 4 桁、月と日は 2 桁で入力してください。

・パッケージ概要

パッケージの概要情報を入力します。511 バイト以内で入力します。

・タイプ

「サービスパック」を指定してください。

・緊急度

「一般」を指定してください。

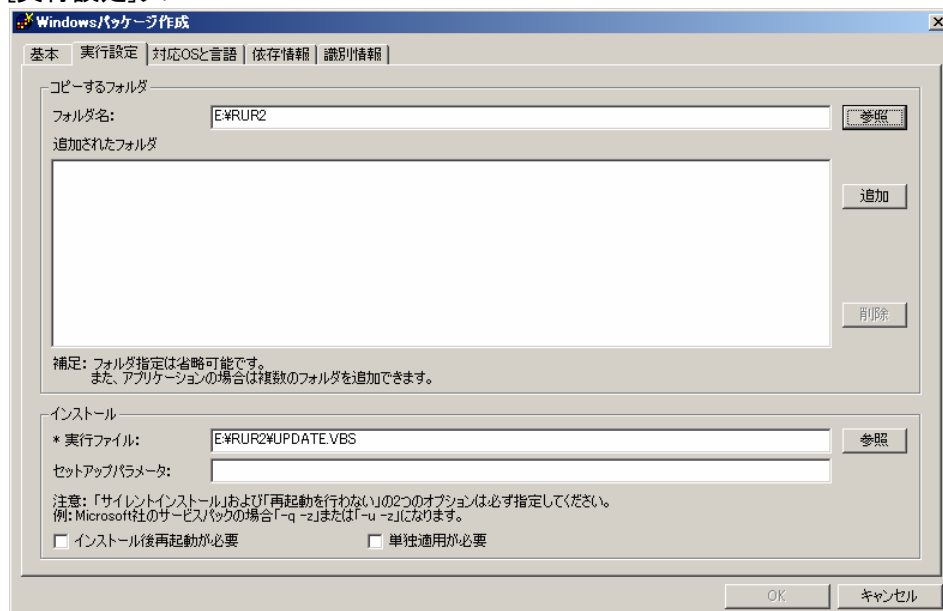
・メジャーバージョン

「2」を指定してください。入力は必須です。

・マイナーバージョン

「0」を指定してください。入力は必須です。

・[実行設定]タブ



・フォルダ名

コピーするフォルダを指定してください。

「参照」ボタンをクリックして、フォルダ指定することが可能です。

注意

- ・「フォルダ名」に UNC (Universal Naming Convention) 形式 (¥¥「マシン名」¥「共有フォルダ」¥「サブディレクトリ」) の指定はできません。あらかじめ「ネットワークドライブの割り当て」を行い、ドライブレターを割り当ててください。
- ・パッチの登録は、フォルダ単位で行われます。1 つのフォルダ内には 1 つのパッチのみを格納するようにしてください。

・追加されたフォルダ

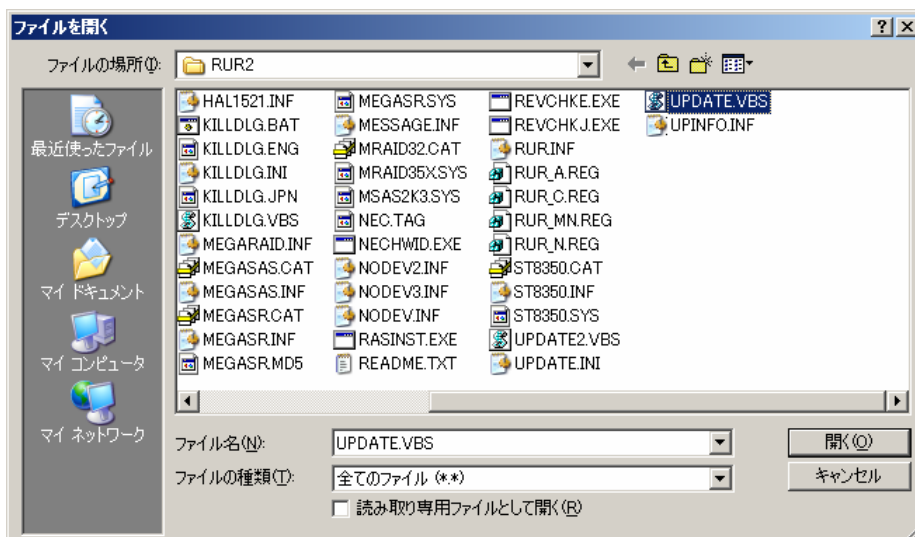
「フォルダ名」で指定したフォルダを「追加」ボタンをクリックして追加します。

・実行ファイル

「E:¥RUR2¥UPDATE.VBS」を指定してください。

「参照」ボタンをクリックして、ファイル指定する場合、[ファイルの種類]を[全てのファイル]に変更し、「UPDATE.VBS」を指定します。

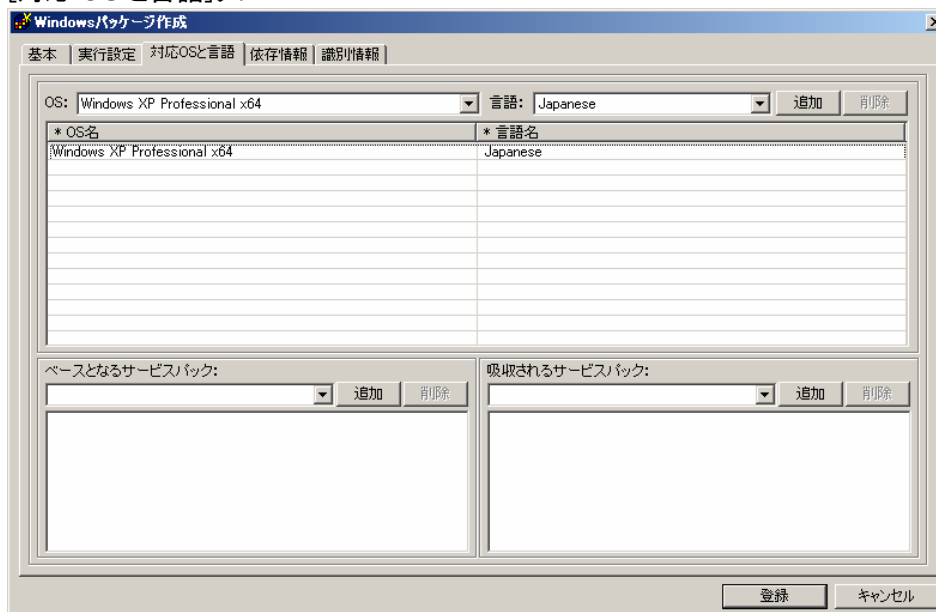
入力は必須です。



重要 実行ファイル名に%xx(xx は 16 進数の 0~f)を含むファイル(例:file%9d.exe)は登録しないでください。%xx を含むパッケージは管理サーバに正しくダウンロードできません。

ヒント Microsoft から提供されるセキュリティパッチの仕様によっては、実行パスに 2 バイト文字が含まれると処理が正常に行われない可能性があります。実行ファイル名は、1 バイト文字で作成されることを推奨します。

・[対応 OS と言語]タブ



・「OS」と「言語」
パッケージを適用する OS と言語を選択します。以下 2 つを指定してください。


OS	言語
Windows XP Professional x64	Japanese

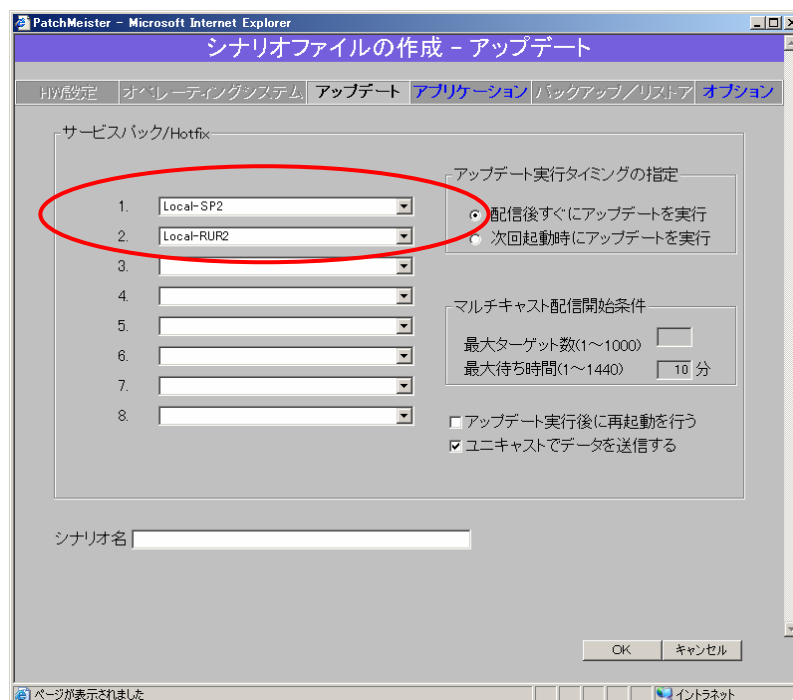
・OS と言語の「追加」ボタン
選択した「OS」、「言語」を追加します。

- (6) 「OK」ボタンをクリックしてパッケージを作成します。

以上で Windows XP x64 Edition RUR2 のサイレントモード化は完了です。

3. Windows XP x64 Edition Service Pack 2、Windows XP x64 Edition RUR2 を適用する

- (1) PatchMeister を起動します。
- (2) メインウインドウ画面の「シナリオ」メニューから「シナリオファイルの作成」を選択し、シナリオファイル作成画面を表示します。
メインウインドウ画面の  アイコンをクリックしても、同様の操作が可能です。
- (3) 「アップデート」タブをクリックし、プルダウンメニューから2と3で登録した **Windows XP x64 Edition Service Pack 2** と **Windows XP x64 Edition RUR2** を選択し、シナリオを作成します。



注意 ・イメージファイルが一度に適用されるよう、シナリオを作成してください。
・サービスパックの適用後に **Windows XP x64 Edition RUR2** が実行されるようにしてください。(1～8までのうち、1から順番に実行されます)

ヒント 「Windows XP x64 Edition Service Pack 2」、及び「Windows XP x64 Edition RUR2」は、コンピュータの再起動後に有効になります。シナリオ実行直後にコンピュータを再起動する場合は、「アップデート実行後に再起動を行う」にチェックを入れてください。

- (4) (3)で作成したシナリオを対象の装置に割り当て、シナリオを実行します。

以上で Windows XP x64 Edition Service Pack 2、Windows XP x64 Edition RUR2 の適用は完了です。

ヒント

SCSI HostRAID を ご使用の場合は SCSI HostRAID の BIOS にて、システムを起動するアレイに対し「起動可能なアレイシステムの設定」が必要になります。Windows XP x64 Edition RUR2 の適用後、「SCSI HostRAID 起動可能なアレイシステムの設定」(P. 9)を参照し、設定をしてください。本設定を行わない場合は、障害発生時メモリダンプを採取することができない等の問題が発生します。

トラブルシューティング

Express5800 シリーズが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容にしたがって Express5800 シリーズをチェックしてください。
リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理にしたがってください。
それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。



Windows XP x64 Edition RUR 2 を適用せずに、Windows XP x64 Edition Service Pack 2 を適用してしまった。

- 差分モジュールのみ適用してください。
詳細な手順は、本手順書の「1.Windows XP x64 Edition RUR2 の適用」
手順(5)〈Windows XP x64 Edition RUR2 のみを適用する場合〉を参照してください。



Web サイトなどからダウンロードした Windows XP x64 Edition Service Pack 2 が使用できない。

- ダウンロードしたファイル(**.exe)を解凍していませんか？
ダウンロードしたファイル(**.exe)は解凍する必要はありません。
解凍しないでそのままご使用ください。

Windows XP x64 Edition RUR2 で適用されるモジュールについて

Windows XP x64 Edition RUR2 で適用されるモジュールは、次の通りです。

- | | | |
|---|--|---|
| ① | Mraid35x.sys (6.45.3.64) | : N8103-80/81,SCSI ROMB 用ドライバ |
| ② | Aarich.sys (6.00.3635.10) | : SATA HostRAID をサポートする最新ドライバ |
| ③ | Adu320.sys (PH3.0S8(内部名: PH 3.0 MS_V98S8 V564A1 bw01)) | : N8103-75,On-Board SCSI |
| ④ | Msas2k3.sys (1.20.0.64) | : N8103-90/91/99 SASROMB をサポートする最新ドライバ |
| ⑤ | St8350.sys (2.9.70.8) | : N8103-101 をサポートする最新ドライバ |
| ⑥ | A320raid.sys (v2.0.0.205.2) | : SCSI HostRAID をサポートするドライバ |
| ⑦ | necras.sys (Ver5.22.3.2) | : 対象機種: Express5800/56Xd |
| ⑧ | REVCHK.EXE (Ver 1.25) | : Windows XP x64 Edition RUR2 サポート対象全装置 |